

4. 介護ロボットおよび介護支援機器・福祉用具の使用法（手順チェックリスト）

1) 介護リフト

(4) 介護リフトの使用手順および注意事項

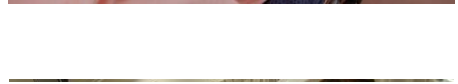
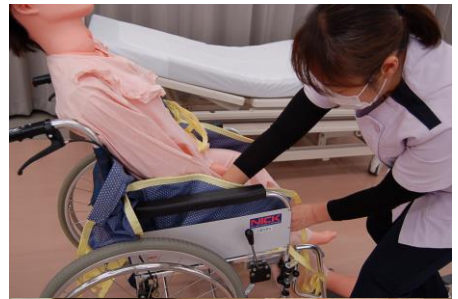
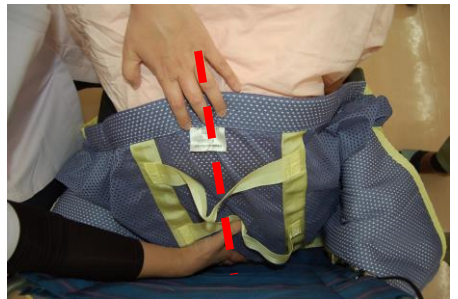
① つり上げ式床走行リフトの使用手順（チェックリスト）


㊦ 脚分離型つり具の車いすからベッドへ

項目	No.	手順	留意点や手順のねらい
使用前の点検	①	使用物品（スリング、リフト、車椅子）の準備と点検をする。	
使用前の準備	②	リフトの赤いボタンを右にひねりながら手前に引き出す。	
	③	リフトのブレーキは解除しておく。	
介助開始時のコミュニケーション	④	利用者にあいさつをする。	
	⑤	これから行うことについての説明を行い、同意を得る。	
	⑥	利用者の体調を確認する。	
つり具を利用者に装着する前の準備	⑦	ローバック吊り具の場合→ベッドの背および膝を上げておく ハイバック吊り具の場合→上げておく必要はない	
	⑧	車いすのブレーキがかかっていることを確認する。	
	⑨	介助者は利用者の横に立ち、表面と裏面を間違えないようにつり具を利用者の背中にかける。（利用者に許可を得る）	右利きの介護者は利用者の左に立つと行いやすい
	⑩	利用者の体幹を前傾させて、つり具を背中に沿って差し込む。 前傾姿勢が不安定な場合は、腋下から手を入れて腕全体で胸を支える。	利用者が前傾したときに車いすから転落しないように気を付ける



つり具を利用者に装着する	⑪	つり具が座面に到達するまで差し込む。	
	⑫	つり具の中央と利用者の背中との中央が合っていることを確認しながら手を引き抜き、利用者の体幹を元に戻す。	
	⑬	つり具の脚部を整えるため、介助者は利用者の前に回る。	
	⑭	脚部の下側ストラップを外側の手で持ち、内側の手をつり具と臀部の間に差し込んで軽く臀部をなでるようにしながら、ストラップのたるみを取る程度に引く。	強く引きすぎるとつり具の中央がずれてしまう。
	⑮	つり具が利用者的大腿部全体を覆うようにする。	
	⑯	左右とも同じことをしたら、両方のつり具の長さがそろっていることを確認する。	長さが同じということは中心が合っているということ。
	⑰	つり具を大腿の下に通し、内側から引く。できるだけ股よりに（股の付け根側に）近づくように引く。	大腿の下にしわを作らないように、たるみをとる。
	⑱	両側で同じことをしたら、つり具の長さがそろっていることを確認し、前で交差させる。	これを忘れると落下しかねないので注意が必要
	リフトの準備	⑲	利用者に声をかけ、床走行式リフトを利用者のそばによせる。



ストラップをハンガーにかける	⑳	ハンガーにストラップをかける。この作業中に片手はハンガーをしっかりとつかみ、手を離してはいけない。	ハンガーが顔のそばでぶらぶらするのは利用者にとっては怖く、いやなものである。
	㉑	頭側のストラップをかけたのち、足側のストラップをかける。	
つり上げの準備	㉒	車いすのブレーキを解除する。	利用者ができる場合は行ってもらおう
	㉓	利用者に声をかけてスイッチを押し、つり上げていく。	車いすの動きを阻害しないようにする
つり上げ	㉔	ハンガーが顔のそばを通過するまでは頭に手をあてるなどぶつからないように配慮していることをジェスチャーで示す	
	㉕	ストラップに張力がかかり、臀部が浮き上がる寸前にスイッチを止める。	
	㉖	停止したら利用者の上腕部を前に引くか肩を浮かせて「圧抜き」をする	スライディンググローブを使用してもよい 
	㉗	利用者の大腿部を少し浮かせて圧迫をとる。つり具にしわが寄っていないか確認をする。	
安全確認	㉘	ストラップのすべてがきちんとハンガーのフックにかかっていることを利用者と一緒に確認する。	ストラップがきちんとかかっていないと吊り上げたときに外れ、落下防止の原因になる。



	②9	体に手をかけて支えながらスイッチを押してさらに上昇させる。	
	③0	臀部がベッド上で通過できる程度の高さまで上昇したらリフトを操作しベッドへ移動する。	利用者の揺れを最小限にするため、利用者を中心にリフトを回転させる。
移乗	③1	ベッドへ移動するときは、臀部からベッドに入っていく。	
	③2	利用者の足首を持ち、90度回転させて向きを整える。	
	③3	利用者の許可を得て、介護者が利用者と同じ向きにベッドの端に座る。	
	③4	利用者が適切な位置に着座できるようスイッチを押しながら降ろしていく。 ローバック→利用者の両膝を押して背がベッドに沿うようにしながら降ろす ハイバック→利用者の下腿を両側から抱え込むようにしながら降ろす。頭を支える必要はない	
つり具を外す	③5	つり具を外す。(側臥位にして外しても、頭部に引きながら外してもよい)	
移乗後の安全	③6	利用者の姿勢や衣服にゆがみ、ひねりがないか確認する。	



メニュー 案の確認	③⑦ 利用者自身に苦痛や体調の悪化がないか確認する。	
--------------	----------------------------	--